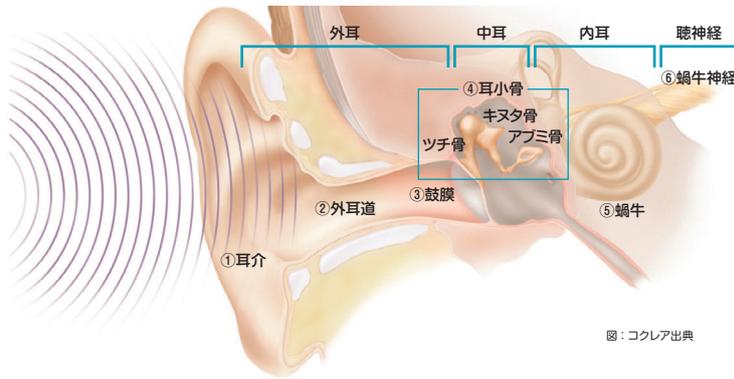


難聴の種類

難聴にはいくつかの種類があります。音情報の伝わるルート（聴覚伝導路）のどこに問題があるかによって、症状は異なります。



図：コクレア出典

聴こえのしくみ

- ① 耳介が音を集める
- ② 外耳道で周波数の強弱がつく
- ③ 鼓膜が振動する
- ④ 耳小骨が内耳の液を振動させる
- ⑤ 蝸牛で振動(音)を電気信号に変換
- ⑥ 電気信号が蝸牛神経を通して脳へ行く

▶ 伝音難聴

外耳道や鼓膜、耳小骨の異常や中耳炎などでおこります。
(①～④に原因あり)

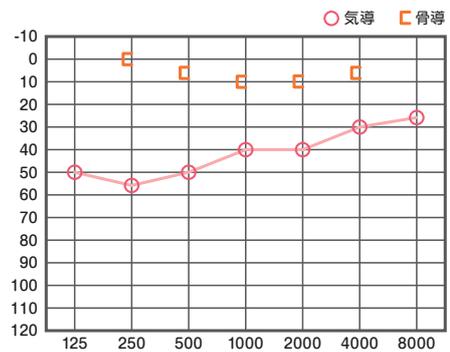
音や言葉が小さくこもってきこえたりします。

補聴器が有効な場合が多く、また、手術による治療の対象となります。

〈オーディオグラムの特徴〉

気導聴力は低下しますが骨導聴力は正常に保たれます。

オーディオグラムの例 (右耳のみ)



▶ 感音難聴

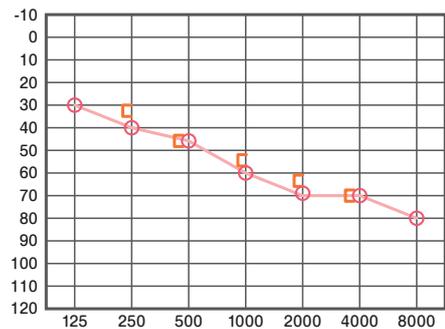
音の電気変換のされ方や、電気信号の伝わり方などの異常です。(⑤や⑥に原因あり)

音が小さくきこえるだけでなく、音が歪み、ききとりがしにくくなります。

補聴器の適応が難しいケースがあります。

〈オーディオグラムの特徴〉

気導聴力も骨導聴力もほぼ同程度に低下します。



▶ 混合性難聴

伝音難聴と感音難聴が合わさったタイプです。

〈オーディオグラムの特徴〉

骨導聴力も気導聴力も低下しますが、気導聴力の低下が大きくなります。

